

幼稚園給食

●幼稚園給食の提供方法

幼稚園で給食を提供する方法としては、以下の方法が考えられる。

①自園調理方式	幼稚園の敷地に給食室を建設し、そこで給食を調理する
②給食センター方式	給食センターを建設し、幼稚園の給食を一括調理して幼稚園へ食缶で配送する
③親子方式	小学校（親）の給食室で幼稚園（子）の給食も調理し、幼稚園へ食缶で配送する
④デリバリー方式	民間事業者の調理施設で給食を調理し、幼稚園へ配送する * 弁当箱方式…調理した給食を一人分ずつ弁当箱に詰めて幼稚園に配送する * 食缶方式…調理した給食を1クラス分ずつまとめて保温容器（食缶）に入れて幼稚園に配送し、教室で食器に盛り付ける方式
⑤小学校訪問	小学校へ行き、小学生と同じ給食を食べる

●幼稚園給食のメリット

- ・管理栄養士が子供の成長に合ったカロリー計算を行い、子供の成長や体にあった食事を提供することができる。
- ・友だちと同じメニューを食べることにより、家では残してしまいがちな苦手な食べ物も給食で食べて克服することができるようになることがある。
- ・保護者がお弁当を用意する負担を軽減できる。
- ・（⑤小学校訪問に限り）小学校の出入りを頻繁に行うことで、入学後の生活をイメージしやすくなり、小学校教育生活にスムーズに入ることができる（幼小連携の一環）。

●幼稚園給食のデメリット

- ・好き嫌いが多い子の場合、苦手なものばかり出た日はあまり食べてくれない可能性がある。
- ・「デリバリー方式」の場合、業者によって質にばらつきがある。
- ・アレルギーのある子どもの場合、手作り弁当の方が保護者の管理のもとで安心して食べられるものを提供できる。

●東海村での給食の提供方法の検討比較表

	①自園調理	②給食センター	③親子方式	④デリバリー	⑤小学校訪問
導入経費	建設費等 (調理室)	用地取得・建設費等 (給食センター)	改修工事費等 (学校及び幼稚園 搬入・搬出口)	改修工事費 (搬入口、配膳室)	食器等購入費
維持運営費	維持管理費（光熱水費等）、人件費等	センターの維持管理費、人件費、配送経費等	配送経費 (献立作成、調理業務は教育委員会と調整)	業者委託料 (献立作成、調理・配送等)	* 献立作成、調理業務は教育委員会と調整
資源の活用	新たに整備	新たに整備	既存の小中学校調理室での調理を活用	既存の業者を活用	既存の小学校を活用
実現に向けた課題	・敷地内で整備すると、園庭の面積に影響を及ぼす恐れがある	・工場扱いとなるため、立地要件の確認が必要 ・自校調理方式よりも整備・運営コストがかかる	・工場扱いとなるため、立地要件の確認が必要 ・既存校の調理能力によっては複数校の整備が必要	・業者が確保できるか確認が必要 (近隣自治体で導入実績あり)	・移動時間で教育時間に影響が生じる恐れがある ・学校側の受け入れが可能か調整が必要